

令和8年2月20日  
産業教育WG  
資料 1 - 1

# 探究学習における問いを立てる力の育成 ～NTT東日本における挑戦～

2026年 2月 20日  
佐野雅啓

( 固定電話  
音声通信 )



固定通信  
の会社

# SOCIAL INNOVATION パートナー

## 「地域循環型社会の共創」

地域の価値創造企業へ

**SOCIAL  
INNOVATION**  
パートナー

 **NTT EAST Group**



通信基盤と  
学びのフィールド  
の融合



高信頼ネットワークとAI基盤



現場力



# 社会課題の解決の核となる リーダーの育成

- 地域課題が複雑化する中で重要なものは、

**「問いを立てる力」と「実現する力」= 智慧**

- NTT東日本が掲げる「地域循環型社会の実現」には、

**次世代のリーダーが必要**

- 通信をつなぐだけでなく、

**地域の「人材」と地域の「未来」をつなぐ**

次世代のリーダーに必要な“智慧”を育む探究学習に  
デジタルの強み(IOWN, tsuzumi等)と リアルの強み(Labo, 地域フィールド等)を活用します。



次世代のリーダーに必要な“智慧”を育む

教育分野では、学校をはじめとした教育機関様をご支援する事業を行っています。  
「教育ICT環境」に加え、社会背景の変化を踏まえて「探究学習」のご支援に取り組んでいます。



NTTe-City Laboは、地域の課題解決に向けたNTT東日本グループの取組を体感できる施設です。多彩な展示や体験プログラムを通じて、興味・関心の幅を広げる学びの場としてご活用頂いています。

# NTT e-City Labo



地域の持続的な  
産業振興・経済成長

地域の賑わい創出  
・交流拡大

地域の  
安心・安全

地域の課題解決を  
支えるICT技術と  
DX



NTTe-City Laboは、東京都調布市にある「NTT中央研修センタ」内に併設されており(東京ドーム2.5個分)小田急線や京王線の電車やバスでアクセスが可能となっています。

## NTT中央研修センタ



NTTグループが保有する研修施設  
(NTT中央研修センタ)にNTTe-CityLaboを開設

## NTT e-City Labo

### 🚗 アクセス

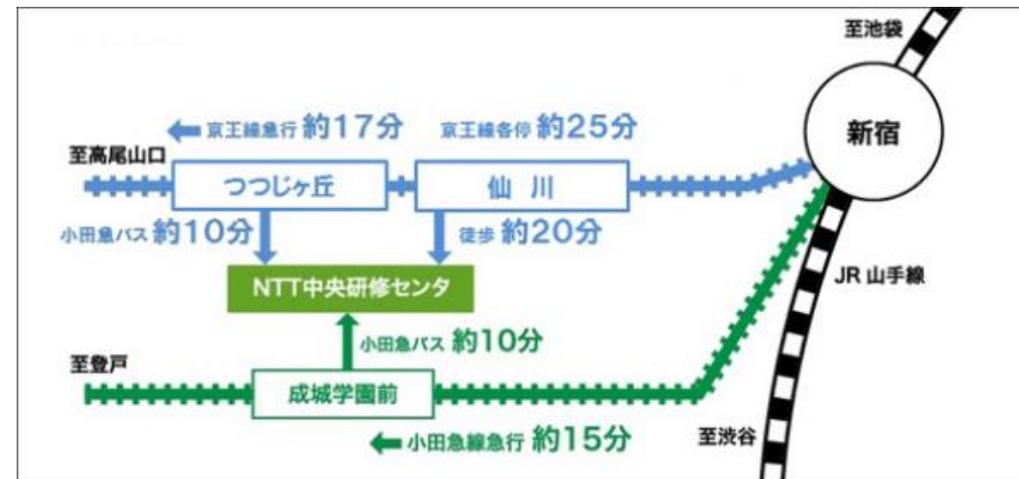
〒182-0004 東京都調布市入間町1-44

#### 小田急線

新宿駅より成城学園前駅:約15分  
成城学園前駅より小田急バス:約10分

#### 京王線

新宿駅よりつつじヶ丘駅:約17分  
つつじヶ丘駅より小田急バス:約10分



NTTe-City Labo等の実証施設での体験から、探究活動の出発点になる“問い”を立てる機会をご提供。多様な取組・体験を通して、初発の思考や行動を起こす力・好奇心を触発し、探究を促進します。

NTT e-City Labo

ー遠隔営農実証ハウスー



ー遠隔営農指導ー



ー陸上養殖ー



ーバイオガスプラントー



ードローンー



ースマートストアー



ー自動運転車ー



ーデジタルアートー

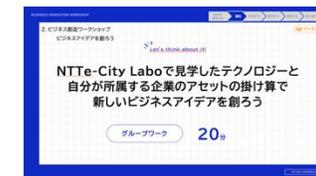


ー防災オペレーションー



リアルな社会のソリューションを体感

問づくりワークショップ



自ら考え・意見を発表する

事後学習(動画教材)



学習内容の定着・理解を深める

※一部ワークショップでは、NTTe-City Labo・ワークショップのみの構成となります。

利根実業高等学校では、3年次の課題研究において「“問い”を育む機会不足」という課題が存在。生徒が実社会の課題に触れ、問いを醸成・育む学びの場としてNTT東日本グループの施設へ訪問。



概要	農業系・工業系の学科を持つ専門高校
生徒数	約360名
グラデュエーション・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えを、口頭及び文章で表現できる「分かりやすく伝える力」</li><li>・農業・工業各分野の知識・技術を身に着けて、実社会で思考し行動できる「考えて動く力」</li><li>・実社会の問題解決に向けて、意欲的・継続的に学ぶ「自ら学び続ける力」</li></ul>
コース	農業系(生物生産科・グリーンライフ科)、工業系(創成工学科)
詳細	ユネスコスクールとしての理念にもとづき、環境教育・食育・地域貢献活動など、SDGsに資する学びを推進 3年次には、課題研究として学びを発表

### 3年次の課題研究に向けての課題感

課題研究のテーマ設定に向けて  
テーマの中核となる“問い”を育む機会が不足



### 産業界のリソース

社会課題のリアルな現場  
テクノロジー活用の実践事例

「問いの醸成・磨き上げ」を目的に  
NTTe-City Laboや森のめぐみ研究所を訪問

NTTe-City Laboでのソリューション体感を通じて、問いの基になる“ワクワク体験”を提供。先生からは「生徒の興味関心の言語化を促進し、課題研究に繋がる良いステップになった」との評価。

## ① 多彩な社会実装ソリューションを体感

- 多様なソリューションを通して「ワクワク体験」を提供

### 次世代店舗体験



### ドローン体験



### デジタルアート



### バイオマス



## ② “問いの醸成”

- 1年次115名へ問いの醸成を図るプログラムを提供



## 先生からのコメント

1年生の段階では、まだ自分の興味・関心をうまく言葉にできない生徒も多いですが、レゴやワークシートを使って『もやもや』や『わくわく』を整理しながら問いにしていくな流れは、3年生の課題研究につながる良いステップになると感じました

問いの醸成では、レゴブロックや独自のワークシートを活用し、生徒の問いを引き出す体験を設計。「ドローンで高齢者の労働負担軽減が出来るか？」など、実社会に紐づく問いの醸成・磨き上げを支援。

01

初発の思考・好奇心を表現



見学を通じて得た気付き、初発の思考、好奇心を表現

- ✔ レゴブロックを通して、生徒の思考気付きや興味関心を表現
- ✔ 初回から言語化しづらい内容もレゴを媒体にすることで言語化を補助

02

表現した内容を言語化



表現を通じて、自身の興味関心がある内容を言語化

- ✔ レゴブロックでの表現した内容を、対話通じて問いへ昇華
- ✔ 探究のテーマ・課題の設定に向けて情報を収集し、問いを磨き上げ

03

問いを設定

🔍 農業分野での生成AIはどのような活用手法・影響があるのか

🔍 トマトなど農作物の保存期間をより長期化させるために何が必要か

🔍 どのようなドローンを活用すれば、高齢者の労働負担は軽減できるか

ワークショップ後、生徒で上記のような”問い“を設定

- ✔ 一連の体験で、生徒のテーマの基となる問いを醸成
- ✔ 農業科の生徒からは、普段の学習内容と関連する問いが立てられた

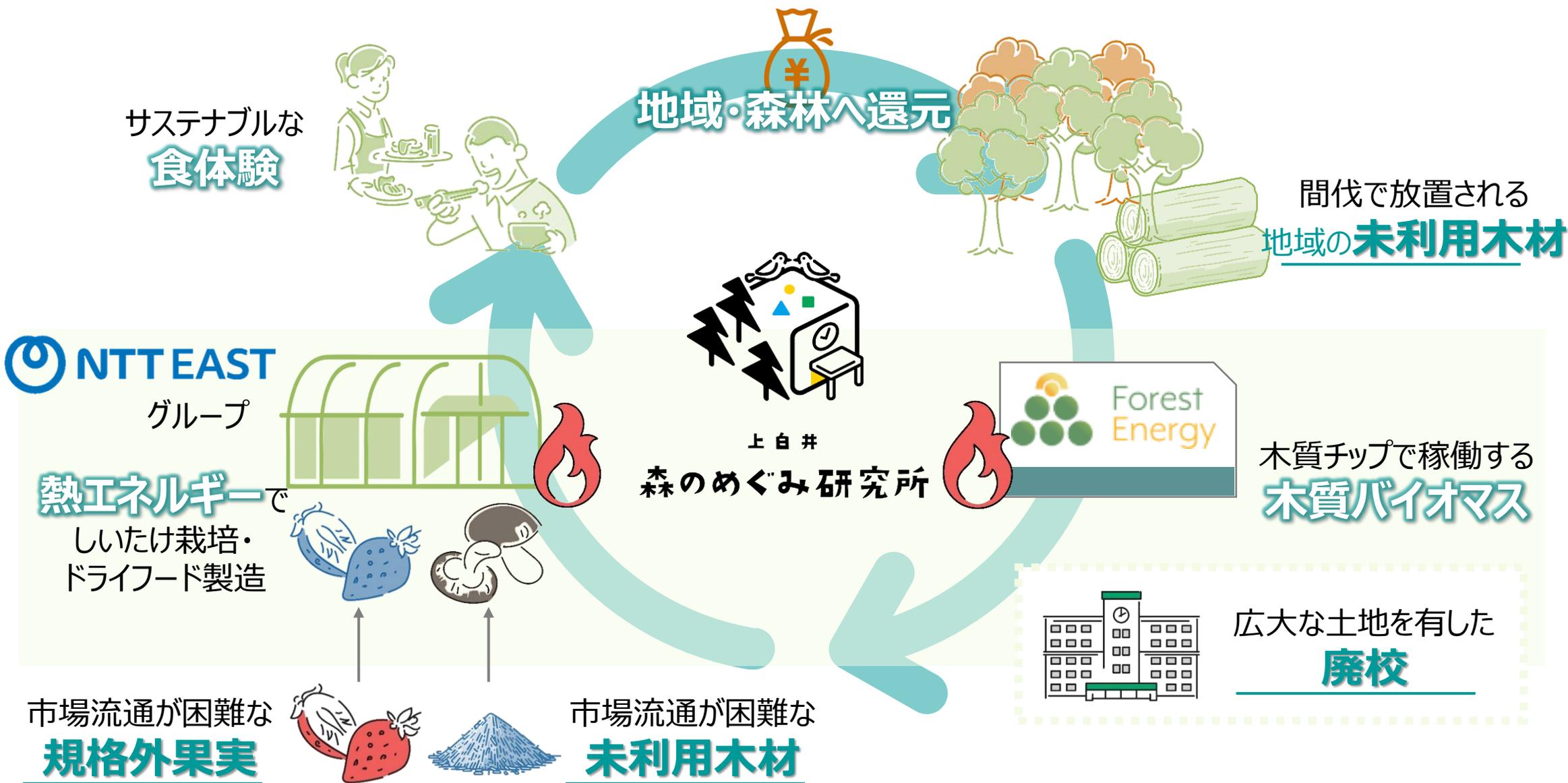
地域の未利用木材を活かした熱エネルギーを活用した食料生産・加工施設。  
農業や資源循環の営みを一体的に学べる地域拠点を、“問い”を育む探究的なフィールドとして活用。



上白井  
森のめぐみ研究所

## 取組み概要





生徒が現地を視察し、事業に携わる社員と直接交流することで、農業・資源循環の理解を深化。概念ではなく実際の現場を通じて学ぶことで、より具体的で多様な問いへの発展を実現。

### 木質バイオマス研究施設“森のめぐみ研究所”の体験

- ・ 地域の未利用資源を活用した当社バイオマス施設を視察
- ・ 環境・農業分野の実践取組を理解・体感する機会を提供



### 体験後の先生からの声

間伐材のチップを使った発電だけでなく、発電時の熱エネルギーを活用して加工品を生産する取り組みを視察し、生徒は、地域資源を無駄なく活用する仕組みに強い関心を示していた。

学校では高額なバイオマスエネルギーを利用する施設の設置が難しいため、今回の見学は循環型農業に触れる貴重な機会となった。熱を活用したキノコの栽培やドライフルーツなどの加工品への応用等、様々な面でこれから先、必要とされる農業のあり方を探究する良い契機となった。

全国には、生徒が実社会に触れ、社会の課題や産業の現場を学べる場が数多く存在しています。こうした企業や地域との出会いが、生徒の興味を刺激し、“問い”を生み出す探究の原動力になります。



全国には、生徒が実社会と出会い、学びを深められる多様なフィールドが広がっています。

NTT東日本にも「e-City Labo」「森のめぐみ研究所」などの場がありますが、それは数ある選択肢の一つにすぎません。

大切なのは生徒が“**本物の現場**”に触れ、社会の仕組みや課題を**自分ごととして捉えること**。

こうした**実体験は、興味・関心を刺激し、問いを生み、探究を前へ進める確かな力**になります。

ぜひ、**産業界と積極的につながり**、学校だけでは得られない体験の機会を広げていただきたい。

全国の地域・企業にも、子どもたちの学びを支える“**リアルな探究フィールド**”が存在しており、その中で出会う“**ワクワク体験**”こそが学びを前へ動かす大きな原動力です。

地域の価値創造企業へ

**SOCIAL  
INNOVATION  
パートナー**

 **NTT EAST Group**